

平成 26 年度環境科学センター研究推進委員会指摘事項への対応

課題名 水源河川におけるモニタリング調査手法の構築

主な指摘事項	環境科学センターの対応
<p>水源管理は健康に直結することから、県民のための環境保全施策の中でも、特に重要性の高い行政課題といえる。</p> <p>本課題は、河川におけるモニタリングデータを水源管理にいかにも有効に活用するかという観点で設定されており、行政上の有用性の高い課題である。</p> <p>5年計画の3年目にあたる今年度までに、既に多くの成果が上がっており、着実に研究が遂行されているものと評価できる。</p> <p>27年度には指標生物の検討（砂場）についてのまとめの年にあたり、新たな解析を試みるという計画になっているが、スケジュール管理に十分留意して進められたい。</p> <p>統計手法の適用にあたっては、有意性があれば必ず因果関係を正しく説明しているとは限らないことに留意し、逆に有意性が十分でなくても因果関係を見出せる場合もあることに留意されたい。</p> <p>具体的な成果の評価が他項目より低くなっているが、成果のレベルが低いと評価しているのではなく、对外発表がこれからの段階であるために評価を保留しているという趣旨であることを付記する。</p>	<p>水源管理は県の主要な行政課題であり、本研究は、それに関連するものです。</p> <p>本研究は、河川のモニタリングデータを水源管理施策に有効に活用するための手法の構築を目指すものであり、行政上の有用な成果が得られるよう研究に努めます。</p> <p>今後は、これまでに得られた成果を検証するとともに、2巡分の経年データを用いて様々な視点から、経年変化情報の整理・考察及び指標生物の検討を行い、着実に研究を遂行していきます。</p> <p>平成 27 年度における砂量の指標生物の検討については、新たな手法により解析を行い、これまでに得られた結果を検証してとりまとめたいと考えています。 なお、新たな手法については、既に試行を行っており、スケジュール管理には十分注意して進めます。</p> <p>統計手法の適用にあたっては、相関関係の有意性だけでなく、影響を及ぼすメカニズム、生物の生態、既往研究の結果等を考慮しながら総合的に解析結果を判断するよう留意します。</p> <p>平成 24 年度から 26 年度の研究成果は、平成 27 年度の研究において検証し、結果をとりまとめ次第発表したいと考えています。</p>

平成 26 年度環境科学センター研究推進委員会指摘事項への対応

課題名 水源河川におけるモニタリング調査手法の構築

主な指摘事項	環境科学センターの対応
<p data-bbox="174 389 936 456">時間をかけてデータを集めていくことが重要な類の研究である。継続をしていくべき。</p> <p data-bbox="174 528 936 671">ただし、成果の発展性を高めるための努力をすべきであり、同様の研究を実施している研究機関等と交流等も検討してはどうか。(そのような情報も「具体的な成果」の評価の一助ともなるのではないか。)</p>	<p data-bbox="981 389 2085 456">森林整備等の施策の効果が河川環境の変化として現れるには時間がかかるため、継続的に順次得られるデータの解析を実施し、モニタリング調査手法の構築を目指します。</p> <p data-bbox="981 504 2085 612">成果の発展性を高めるため、同様の研究を実施している研究機関との交流を働きかけていきます。また、山間地において河川底生動物の調査研究を行っている県自然環境保全センターとは連絡を密にしていきます。</p>

平成 26 年度環境科学センター研究推進委員会指摘事項への対応

課題名 水源河川におけるモニタリング調査手法の構築

主な指摘事項	環境科学センターの対応
<p data-bbox="174 389 938 453">県民参加型の調査が続いており、また継続性が重要なテーマである。その意味から県として取り組む意義があると考ええる。</p> <p data-bbox="174 528 938 703">データを解析し有効な結果や提言につなげていく部分こそ、環境科学センターが果たすべき役割である。その意味で新しい統計学的解析方法を導入しようとする姿勢は評価できる。統計解析とその解釈では、統計の専門家などの連携しつつ、間違いのないようにすすめることを望みます。</p>	<p data-bbox="981 389 2083 453">今後も、データを蓄積するとともに、研究においてデータの活用方法の検討を行い、行政上の有用な成果を得ることを目指します。</p> <p data-bbox="981 504 2083 612">データ解析を通して、行政に対する当センターの役割を果たせるよう研究に努めます。 なお、統計解析とその解釈については、生物データ解析には東京大学の加賀先生のアドバイスをいただいています。</p>

平成 26 年度環境科学センター研究推進委員会指摘事項への対応

課題名 水源河川におけるモニタリング調査手法の構築

主な指摘事項	環境科学センターの対応
<p>河川の生態系について、砂量と指標生物について検討されている点は、長期的な河川環境を管理するために重要な考え方であるといえる。自然豊かな神奈川県下における長期的な河川管理に向けて意義のある取り組みである。統計的手法で生物種 2 種に絞り込み、検討を行っており、今後、データ解析を進めることで、砂堆積との関係の精度が上がることを期待される。なお、SS 中のリンとの関係については、考察を深めて欲しい。</p>	<p>データ解析においては、新たな手法による検討を行うことにより、精度の向上を図ります。 なお、SS 中のリンと平均スコア値の関係については、SS とともに変化すると考えられる TOC、EC 等との関係を合わせて検討して考察を深めます。</p>